

球磨川流域の「命」と「環境」を守り、そして一日も早い復旧・復興へ

～新たな流水型ダムを含む「緑の流域治水」をベースとした創造的復興を実現～

令和2年7月豪雨からの
復旧・復興プラン

「令和2年7月豪雨」は、球磨川流域を中心に甚大な被害をもたらしました。熊本県では、二度とこのような被害が発生しないよう、治水の方向性を定め、11月24日に「令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン」を策定しました。

プランでは、「命と環境の両立」を目指し、流域全体の総合力による「緑の流域治水」に取り組みます。さらに、被災地の復旧・復興を強力に推進し、「愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が“残り・集う”持続可能な地域」の実現を目指します。



既に着手・完了 復旧・復興に向けた主な取り組み

被災者一人一人に寄り添い、それぞれの意向に沿った住まいや
なりわい(生業)の再建を支援します。

住まいの再建・被災者の見守り支援

- 早期に被災者の方々が安心できる住まいを提供するため、発災後すぐに建設に着手し、12月9日には7市町村で808戸の仮設住宅が完成
- リバースモーゲージ利子助成等、県独自の住まいの再建支援を実施
- 地域支え合いセンターによる被災者の見守りや相談対応 など



球磨村グラウンド仮設団地



人吉市西間上第一仮設団地 みんなの家(集会所)

宅地内土砂撤去

高齢者など自分で土砂撤去することが難しい方のため、国の補助制度の対象とならない宅地についても、県で新たな補助制度を創設し、市町村が躊躇(ちゅうちよ)なく土砂撤去ができるよう支援

大型災害ごみ分別撤去

自衛隊等と連携し、全国初となる「大型災害ごみの分別撤去」を実施するなど、市町村による早期適正処理を実施



自衛隊と連携した大型災害ごみの分別撤去

なりわい再建支援補助金

被災事業者の生業再建を強力に後押しするため、「なりわい再建支援補助金」を制度化

既に着手・梅雨時期までに実施 喫緊の治水・防災対策

災害発生防止のため、速やかに治水・防災対策を進めます。

堆積した土砂の早期撤去

洪水により、支川に堆積した土砂約85万m³の掘削を実施

掘削状況
相良村(川辺川)



支川の災害復旧・改良復旧

被災した河川のうち、緊急性の高い箇所について、応急工事や復旧工事を実施(山田川、万江川など)

芦北町(天月川)



山地災害の早期復旧と砂防・治山施設の整備

砂防堰堤(えんてい)の除石・流木撤去のうち、緊急性の高いもの(11箇所)の実施 など

災害時の命綱となる伝達機能の強靱(きょうじん)化

防災行政無線などの戸別受信器の設置や、緊急警報サイレンによる避難呼びかけ など

確実な避難による「逃げ遅れゼロ」

浸水想定区域図やL2(想定最大規模)に対応したハザードマップの作成 など

※国管理の球磨川等についても、堆積土砂の掘削など、喫緊の対策が速やかに進められています。



撤去済

将来ビジョン



“緑の雇用”
の創出に向けた
森林資源のフル活用

再生可能エネルギーの
導入推進による

ゼロカーボン^(※)先進地の創出

^(※)CO²排出実質ゼロ

ダイナミックな
インセンティブによる企業支援と
産業・雇用の創出

なりわい(生業)・
産業の再生と創出



球磨焼酎の
“トップ・オブ・ザ・
ワールド戦略”

ツールド九州
の誘致も



自然を体感できる、
ドライブ・サイクリング・
ランニングロードの整備

「アユ」・「アサリ」による
地域活力の再生



すまい・
コミュニティの創造

最先端技術(AI,ICT等)を駆使した
新たな“つながり”による、“スマート・ビレッジ”の実現

農地の大区画化等による生産性の向上など
稼げる農業の実現



新型コロナ収束後の新たな
インバウンド^(※)戦略の実行

^(※)国外・県外旅行者



くまモンやクラウドファンディングを活用した
球磨川ファンクラブの設立



誰もが暮らしやすい・魅力あふれる
まちづくりと
新たなコミュニティ
の形成

緑の流域治水
生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス



人吉球磨の
観光拠点化

復興のシンボルとしての
清流川辺川・球磨川の継承



地域の魅力の向上と
誇りの回復

ICTで生活
防災情報が
迅速にわかる



オンラインで
診療・調剤もできる

持続可能な医療、
地域包括ケアシステム
で安心



「陸の孤島化」しない、
道路・通信網の
リダンダンシー^(※)確保

^(※)交通網の多重化など

命の道・通学の道
としての「国道219号」の強靱化

災害に強い社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり

災害に強い地域拠点・避難所としての
「防災公民館」や「防災道の駅」の整備

全国から若者が集う
魅力ある学校づくり

「kumaラボ^(※)」で地域の
課題や可能性を研究

^(※)大学や企業などと連携し
研究を行う場

若者が残り、集う
知的拠点としての

“球磨川流域大学(仮称)”の構想

ICT教育日本一



球磨川流域の
治水の方向性について
知事メッセージ
(約2分)



熊本は今、大逆境の中にありますが、必ずや災害からの復興を成し遂げ、50年後、100年後の熊本の発展につながる、新しいくまもとを創り上げて参ります。皆さん、良いお年をお迎えください。

河川の整備だけでなく、森林整備や避難体制の強化などに総合的に取り組み、行政、企業、住民の方々も含め、流域のあらゆる関係者が協働しながら、流域全体の総合力で安全・安心を実現していく、「緑の流域治水」により、50年後、100年後の球磨川流域の「命」と「清流」を守り、この地域に住み続けたい、移り住みたいと思える持続可能な地域の実現を目指して全力で取り組んで参ります。

そして、被災された方々が生活再建を成し遂げるまで、最後のお人までしっかりと寄り添い、支援して参ります。

新型コロナウイルス感染症、そして豪雨災害と、県政上例を見ないほど本県にとって厳しい1年でしたが、その一方で、今年はいまもアビュという10年という記念すべき年でもありました。くまモンのイラストによる新しい生活様式の周知や、被災地の訪問など、くまモンが皆さんに元気を希望をお届けしました。改めて本県にとってかけがえのない存在に成長したことを実感しています。

熊本は今、大逆境の中にありますが、必ずや災害からの復興を成し遂げ、50年後、100年後の熊本の発展につながる、新しいくまもとを創り上げて参ります。



熊本県知事 蒲島郁夫

令和2年を振り返って

今年、熊本地震からの創造的復興が進む中、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、本県にもかつてないほどの大きな影響を与えました。県では、感染拡大防止の取り組みを行うとともに、県民生活・経済活動とのベストバランスを図って参りました。

そのような中、7月に本県を襲った記録的豪雨が、県南地域を中心に甚大な被害をもたらしました。

発災直後に人吉・球磨地域 八代市坂本町、芦北町、津奈木町などの被災地を訪れ、変わり果てた地域の状況を目の当たりにし、自然の脅威を痛感するとともに、二度とこのような被害を起してはならないと固く心に誓いました。

そして、球磨川流域を巡り、住民の皆さまの御意見をお伺いする中で、「命と環境の両立こそが、全ての流域住民に共通する「心からの願い」であると確信し、「新たな流水型ダム」を含めた「緑の流域治水」を進めていくことを決断しました。